

1 令和5年度 研究主題

自ら考え判断し、自己を生かす活動に喜びをもつ子供の育成 ～実践力を発揮するための基礎力・思考力の充実を目指して～

2 主題設定の理由

Society5.0、GIGA スクール構想、SDGs、働き方改革など社会の変化に伴い、家庭の様子や子供の姿も変化する。その対応の複雑さに真摯に向き合ってきた。変化の中で立ち止まり、学校の存在や教師の役割について考える必要があるだろう。未来を歩む子供たちにとって必要な力をこれまで以上に見極めて実践することが求められている。

学習指導要領の総則では「主体的・対話的で深い学び」の実現に向けた授業改善が求められている。さらに、「令和の日本型学校教育」の姿を「全ての子供たちの可能性を引き出す、個別最適な学びと、協働的な学びの実現」としている。

本校では学校教育目標の実現に向けて、令和2年度から道徳教育を中心に据えて、道徳科・特別活動・総合的な学習の時間を柱にして実践に取り組んできた。子供たちは、教科や道徳科の学びを通して身につけた道徳性を学級や学校・地域社会の中で発揮して、特別活動や総合的な学習の時間に取り組み、さらに学びを深めてきた。

しかし、子供の姿を見ると、自分の考えに自信がなく消極的な行動であったり、友達との関係性をうまく築けず自分の力を発揮できなかつたりする。他者のためや地域のために進んで行動しようとするエネルギーはまだ小さい。そこで、本年度は、これまで身につけてきた人間関係力や社会参画力などの“実践力”を未来に向けて高めていくために、その基礎的な力となる力を育てていく。

3 研究の内容

ア. 主題について

「実践力」を発揮するために、「基礎力」と「思考力」を高める。「実践力」を発揮することが、自ら考え判断し、自己を生かす活動に喜びをもつ子供の姿の実現につながると思う。「実践力・思考力・基礎力」の言葉は、国立教育政策研究所の21世紀型能力をイメージとして捉える。この三つの力は「『思考力』を中核とし、それを支える『基礎力』と、使い方を方向づける『実践力』の三層構造」とされている。

これまで本校で取り組んできた道徳科・特別活動・総合的な学習の時間の学びは、「実践力」に位置付けられる。その実践力を支える「思考力」「基礎力」を育てることで、これまで身につけた「実践力」をさらに伸ばすことができると思う。

また、これらの力は一つの教科で実現できるものではなく教科・領域横断的に取り組んでいくものであり、子供の実態に応じて、柔軟に取り組んでいくことができる。そのため指導者の自由な発想で、様々な角度から取り組み学び合うことで、学校全体の成長につながる。

21世紀型能力：『生きる力』としての知・徳・体を構成する資質・能力から、教科・領域横断的に学習することが求められる能力を資質・能力として抽出し、これまで日本の学校教育が培ってきた資質・能力を踏まえつつ、それらを『基礎』『思考』『実践』の観点で再構成した日本型資質・能力の枠組みである。

(育成すべき資質・能力を踏まえた教育目標・内容と評価の在り方に関する検討会 国立教育政策研究所)



イ. 視点

視点1: 「4つのまごころ」を軸にした道徳科、特別活動、生活・総合的な学習の時間の授業実践

- ・「4つのまごころ」を学級目標・評価ツールとして活用
- ・道徳的価値の自覚を深める道徳科の授業づくり
- ・道徳的価値観から創り上げる学級活動の授業づくり
- ・教科・社会とのつながりを意識した生活・総合的な学習の時間の授業づくり

視点2: 「基礎力」「思考力」「実践力」の付けたい力を意識した授業実践

- ・これまでの実践から高めたい「実践力」を教科・領域横断的に捉えた計画
- ・実態を踏まえた「基礎力」「思考力」の目標設定と実践
- ・資質・能力を育むための授業づくりの検討と実践

視点3: 自由な発想を生かした豊かな実践と学び合い

- ・多様な視点、角度から資質・能力を育む素材を用いて実践
- ・学びの共有や振り返りを生かして自分の実践を見つめる実践

4 研究の方法

ア. 組織

校長—教頭—全体会—研究部

■研究推進専門部会（研究部、各学年）

■領域部会 □道徳科

□特別活動

□総合的な学習の時間

■テーマや学年などでグループを設定

イ. 方向性

